事例No.	2804
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	特定非営利活動法人越後妻つまり有里山協働機構

事例区分	地域活性化

タグ	・移住定住 ・人材確保・育成 ・関係人口

事例種類	関係人口

事例内容・タイトル

里山での新たなライフスタイルを提唱するFC越後妻有プロジェクト

出典

令和５年度ふるさとづくり大賞事例集

ふるさとづくり大賞　団体表彰



©Nakamura Osamu

里山での新たなライフスタイルを提唱するFC越後妻有プロジェクト

特定非営利活動法人越後妻有里山協働機構（えちごつまりさとやまきょうどうきこう）

DATA

事　例　名：里山での新たなライフスタイルを提唱するFC越後妻有プロジェクト
所　在　地：新潟県十日町市松代3743番地1
連　絡　先：TEL 025-761-7749
FAX 025-761-7911
E-mail info@tsumari-artfield.com
ホームページ：www.echigo-tsumari.jp

取り組みの概要

女子サッカーにおけるプロ契約の高い壁と高齢化が進み美しい棚田を守る農業の担い手不足という2つの課題に対し、女子サッカー選手が越後妻有地域（十日町市・津南町）に移住・就農しながらプレーすることで、選手は働きながらプロリーグ参入を目指す環境を得られ、また、地域にとっては若者が農業の担い手となることで高齢化の進む地域問題の解決の糸口にしたいという狙いから、このプロジェクトが生まれた。現在、選手は農業だけではなく、本団体が主催する「大地の芸術祭」の運営にも携わっている。

評価された点

●就業者不足解消と女子サッカー振興の良いアイデアである。企業にとっても応援するメリットが理解しやすく、サポートが得られやすい。
●受け入れる地域と、関わる人材という双方の課題解決を考えて工夫した取り組みであり、マッチングに成功し、定着した際に地域に与えるインパクトは大きい。
●女子サッカー選手の移住・就農を通じて、多角的に地域活性化に取り組む点を評価。
●2つの課題を合わせた、とても先進的な取り組みである。高齢化や移住や棚田の保存などはとても大事な課題で、この取り組みはそれぞれの解決に貢献している。

取り組みのプロセス

取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題
その取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題について記載。

行政や外部からの支援
行政や外部からの支援などについて記載。

きっかけ

2000年
・大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ開催。

2003年
・まつだい棚田バンクが発足。

2008年～

・作品の増加や適切な維持管理の必要性。
・芸術祭への県からの財政的支援の終了。

経済的自立を目指し NPO法人越後妻有里山協働機構設立
・大地の芸術祭で生まれた作品や施設の維持管理、芸術祭施設の通年事業化に伴う運営団体の必要性。
・移住者や若者の働く場所の確保。



2015年～

・女子サッカー選手のプロ契約の壁。
・棚田(中山間地農業)の担い手不足。

FC越後妻有プロジェクト発足
・当初、3名の選手と監督でのスタート。以降も選手の加入が続く。
・大地の芸術際クリエイティブディレクターの佐藤卓がチームロゴのデザインを担当。

2021年～

・新監督、シニアディレクター、新選手加入。

北信越女子サッカー サッカーリーグ2部加入
・2021年は3位の好成績を収める。



2022年～

・2022年北信越女子サッカーリーグ2部優勝。

「大地の芸術祭 2022」開催、北信越女子サッカーリーグ2部優勝
・選手は12人に増加。
・7勝1分と無敗優勝し多くのメディアで取り上げられる。
・当間多目的グラウンドで行われるホームゲームには、地域リーグでは異例である約300人のサポーターが応援に駆けつける。



2023年～

2023北信越女子サッカーリーグ3位
・約870aの棚田等の保全管理。
・芸術祭施設の維持管理、ツアー、広報に従事。
・冬季の臨時教職やサッカー教室・体操教室を通じた地域活性化活動。

今後の展望

・サッカー／農業／芸術祭運営／体操／サッカー教室などによる地域活性化を目指す。
・選手を引退しても安定的な収入の確保の実現による新しいライフスタイルの提案。
・棚田保全の担い手育成。

受賞者のコメント

私たちNPOは「大地の芸術祭」の概念を根本にもち、地域と共に厳しい現状を受け止めようと農業を始めました。そのなかでFC越後妻有が発足し、当初は選手も少なく未経験の農作業に皆、苦労していましたが、今では選手も増え、地域から全力で応援される姿を見ると、FC越後妻有がもたらす力に圧倒されます。また農業だけでなく、芸術祭の作品制作、運営、ツアー、広報、物販と多岐にわたる業務に携わるほか、臨時教職やサッカー教室、体操教室も行うなど、芸術祭や地域に必要不可欠な存在にまで成長しました。これらの活動を受賞という形で多くの方に知っていただければ嬉しいです。